

たという。

某氏の驚きはたとえようもなく、無我夢中で駆け出し、一目散に瀧まで駆けつづけて某家にたどり着いた。しばらくは起きあがることもできず、顔面蒼白で口もきげず、伏してしまい、発熱はするし、大きわぎになつた。

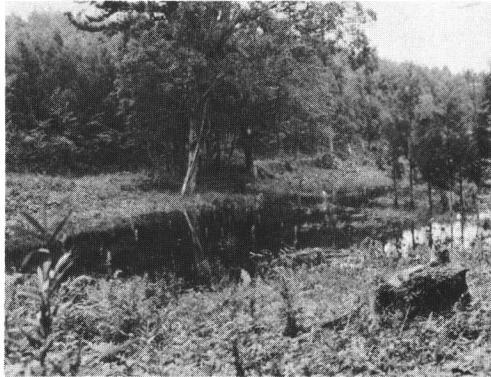
帰路はこの道を通ることができず、長沼を大廻りして、神主様の所に行き、祈祷をしてもらつて、家に帰り着いたが、發熱して伏せてしまいその後は藤沼様の悪口は言わなくなつたという。

●その二 自現太郎様

藤沼神社は、祭神が木花開耶姫で、女の神様である。夫の神様は自現太郎様で、宇都宮の男体山の中腹に祭られている自現太郎神社の神様である。

この神様が木花開耶姫にお逢いにお出になるわけで、不時沼が水をたたえている時は、夫の神様がお出になつている時であるといわれている。お出になる時は、大雨の時ともいわれている。

上江花の某氏が、ある大雨の日に、藤沼の道を通つた。それは篠突くような大雨に風さえまじつて、視界がほとんど見えない有様だつた。



沼となつた
藤沼神社入口